

(様式第4号)

第三次上田市文化芸術振興に関する基本構想策定委員会 会議概要

1 審議会名	第三次上田市文化芸術振興に関する基本構想策定委員会
2 日時	令和8年1月9日 午後3時00分から午後5時まで
3 会場	市役所南庁舎 5階会議室
4 出席者	増田榮美委員、竹田貴一委員、荒井博文委員、川口伸哉委員、児玉卓文委員、佐藤和雄委員、高木夏子委員、手塚早由委員、南村昭夫委員、村上空屋子委員、八木叶子委員
5 市側出席者	小林文化スポーツ観光部長、春原文化政策課長、宮下文化政策担当係長、荻原交流文化芸術センター館長、堀内交流文化芸術センター副館長、山岸市立美術館館長、小平生涯学習・文化財課 文化財保護担当係長
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和8年1月30日

協 議 事 項 等

1 開 会 (副会長)

2 協議事項

(事務局) 昨年の11月17日から12月22日まで行ったパブリックコメントの反映結果を反映した部分を皆さまにご確認をいただければと考えている。協議の状況によるが、今回を最終回という形にして、2月2日の答申としたい。

(資料の説明)

資料1-1 「第三次上田市文化芸術に関する基本構想(案)」市民意見募集の手続きについて
資料1-2 パブリックコメント等を反映した変更箇所一覧

(会 長) 事務局から説明がありましたが、皆様方から質問意見等ございましたらお願いしたい。

(委 員) 文化少年団の説明を付け加えていただき、非常に分かりやすくなったと思う。

(委 員) 「また、AI等のデジタル技術の急速な進展～」の部分だが、要望を寄せていただいた市民の意見の概要を見ると、「与える影響についても一定程度触れておくことが望ましい」という「一定程度」という解釈の仕方だが、量的なことではなくて市民生活にこんな課題が出ているというようなことを記載して欲しいということのように思うが、どうか。

(事務局) AIはこの5年ぐらいでもだいぶ技術が進展しており、市民生活、特に私共の仕事の上でも大きな影響を与えている。ただ、その辺りを書きすぎるとあまりにも膨大になりすぎるかと思ひ、文化芸術に関するAIの活用については、AIが作った画像の著作権はどうなるのかなど専門家の皆さんで議論されている現状を拾い上げ、その辺りを凝縮してこちらに記載させていただいている。

(委 員) この文言は国がどこかで資料として使っていたものを引用して貼り付けたことではない?

(事務局) そうではなくて私の方でこういう状況だということ把握して書かせていただいた。

(委 員) 具体的な内容が「子どもアトリエ」のこととか「ふれあい事業」など具体的な事業の名称の記載がある部分は、基本サントミュージゼのことだけになっていて、例えばセレスホールだと「ピアノリレーコンサート」など独自でやっている事業もあると思うので、同じ市内の文化施設という意味で言うなら同等に記載をするのが良いのではないかと。

(事務局) 丸子文化会館の自主事業についても、追記させていただく。

(委 員) パブコメを経て出来ているこのプランについて、上田市としてこれを基にやっていけるのか、どのように受け止めているのかお聞きしたい。

(事務局) 内容的に見るとファジーな部分もあることにはあるのですが、今後このような理想像を実現していくためには、若干「夢」的な部分があってもいいのかなと思う。これを参考に、「サ

ントミュージゼだったらこれをやろう」「セレスだったらこれをやろう」「少年団はこれをやろう」など、個別事業を実施していく予定なので、その際にはもっと具体的な御意見をお聞きしたり、お話をさせていただくということになるかと思うが、現段階では非常に素晴らしい基本構想を作っていただいていると私個人としては思っている。

(事務局) 今回の構想を私も一緒に作っていく中で、「実現できるだろうか」という部分も確かにあると思うが、こういった所を書いていかないと実際に実施計画を作成したり、予算をつけていくというところにつながっていかない。いずれにしても、行政は書いた以上は、これに向かって進んでいかなければいけない使命があると思っている。色々な関係部署が庁内にはあるので、その中で皆さんと情報を共有して計画を立てていく際の根拠として、基本構想に記載したからには、実現に向けて取り組んでいきたいと考えている。

(委員) この計画が何のためにあるのだろうか、と考えた時にももちろん市民である私達と密接なものだとは思いますが、それ以上に上田市という行政が事業を行う上での根拠の一つだと思って、色々な文言を盛り込んでいってもらったと思う。例えば、私は「障がいや性別、年齢のところの関係団体と協力を」みたいな部分が小さな根拠になって、上田市の事業の根拠になっていくと思っている。細かなことの積み重ねではあるが、上田市が事業を進めていく上で良い根拠になれるプランになったのであればいいなと思っている。

ちなみにこれは10年計画ということで、5年ぐらいで見直しをする予定はあるか。総合計画は5年ぐらいで見直しをしているが、どうか。

(事務局) 見直しをすることは可能だが、今のところ10年と考えている。

(委員) 先ほどAIというお話があったので、この時代の中で多分5年ぐらいでいろいろなことが変わってしまうだろうと思った時に、どこかで見直していけるとよろしいのではないかと思う。

(委員) 1回目の会議の時に、第一次基本構想は、合併をしてということでの背景があったということをおし上げたと思う。第二次の基本構想がサントミュージゼの立ち上がりというところがあって、今回は「何がテーマか」と考えた時に、実は別件で市内の学校を全部回らせていただいてヒヤリングさせていただいた中で、今後一番ポイントになっていくのが人口減少だと感じた。圧倒的にリソースが足りなくなるという現状が、目の前にあるということを痛感している。基本構想の中に、(2) 少子化、人口減少の急速な進行というのがあるが、私はこの視点が具体的な現状と課題と、これからということについてちょっと足りないかな、という気がしている。全体的な構想は素晴らしいと思うし、今までの議論の中での話なので良いと思うが、そこがないと、また、AIがなぜ出てきているかという話もAIを活用していかないとリソースが足りないから、マンパワーが足りないから、という話が結構出てきている。今まではマスメディアとかを使って沢山集まって、みんなでやっついこうということが基本路線だったが、そもそも人口が少ない、ということが目の前に起こりつつある。それを踏まえた上でどういう風に乗って乗り越えていくかというスタンスが今後の10年を決めていくのではないかと感じている。その辺の視点を、具体的に書き込むことはできないと思うが、構想なので何か一文が基本施策の中に入っていることが必要だと考える。

(事務局) 入れるとすると15ページの「育成を基本理念とした文化芸術活動への支援と文化創造」の(2)の①の中でどこかに「人口減少への対応」を入れられないか、と考えている。検討させていただきたい。

(会長) 先ほどの委員からの御意見を反映する方向でお願いしたい。追記した部分について、メール等で委員の皆さんに確認していただくということで良いか。

(事務局) 委員からの御意見を反映させていただき、結果については、全委員さんに共有させていただく。

(委員) 文章の中で気になることがあったので、8ページの「第2章」の一番下の「市民主体による効果的な文化振興を図るための公演事業に対する助成金」のことが書いてあるが、「10年使われるガイドライン」ということで考えるとこの「支援の方法について検討が必要で

いいのではないと思った。

(事務局) 確認させていただきたい。

(委員) 文章が整って読みやすくなっていると思う。1点、これから人口減になっていく時に公共施設を含めてどう維持していくのかという話が出た時に、税収も少なくなる、人も少なくなり、現状の公共施設を全部維持できるか、という難しい部分もあると思う。これは今回のプランということではないが、今後の議論として考えていただければいいのかなと思う。基本構想の「市内文化ホールについては、今後、老朽化が進んでいくことから、適切な維持管理を行っていく必要があります。」のこの「適切な維持管理」を続けることによって、莫大な予算が割かれて、使う必要のない施設が残ってしまうということは、逆にあまり良くないことであると思う。適切な人口に合わせた施設、施設を壊すことも含めた考え方というのは、今後必要なのではないか。あまり使われていないホールが増えている中で、施設管理、維持管理に莫大な予算が使われていて、その予算があるならば地域の創造活動や事業にお金を回せることも十分あるのではないかと思う。そういった可能性を議論していく場が必要なのではないか。それはサントミュージゼとかセレスとか文化会館とかだけじゃなくて、公民館、温泉施設とかそういったものも含めて公共施設の適切な方針みたいなことを統廃合も含めて考える場があった方が良く感じている。もちろん施設はあった方が良く、使われない施設があっても、文化全体のバランスが良くないというか、施設だけにお金がかかってしまうということでいいのか、ということを考えていく必要がある。

(事務局) 現在、担当の部署が市全体の公共施設について検討しているところである。公共施設の集約化や複合化等を検討していかないといけない。ただし、この時に注意しなければならないのは地域バランス。例えば、どこかの地域で急に様々な施設が無くなってはいけない。人口が減るのはどうしようもないということで、人口減少をどれだけ緩やかにできるかということ、一生懸命取り組んでいる。その一助になるよう、こういった文化で潤いのある社会をつくるとか、皆さんに楽しんでいただけるホールがあるということが大事だと思う。

ただ、公共施設については、統合とかそういうことは非常に難しく、学校は特に地域のシンボルという雰囲気がある。単純に児童・生徒が少ない、利用者が少ない、古くなったから、といったことだけで統合できないということはある。最近議会でも上田市の財政が厳しいと指摘されていて、市長も選択と集中ですとか、コストとかそういったキーワードを用いながら話をさせていただいているので、時間はかかるかもしれないが、行政もそういった意識は共有している。

(委員) 先ほど公民館の話も出たので、自分も公民館について考えていることがあって、前回、前々回の時にもお話させていただいた、市民から立ち上げってくるような創造性みたいなものをいかに豊かにしていけるか、という点についてだが、例えば全国的に見ると、公民館を指定管理として指定管理者がそのアート活動の場として公民館を開いていくというやり方もあり、市民が「自分たちが創出していく活動の場」として公民館を使っていく有効な方法だと思う。

現状、土曜日、日曜日は公民館の職員の方がいらっしゃるなくて、平日の昼間は職員さんがいらっしゃるのですが、これは逆だと思っていて土曜日、日曜日に利用者が大勢いらっしゃるし、平日の夜と土日に施設の職員の方がいて利用者が使うことが公民館の機能としてできていくと、鑑賞事業はサントミュージゼを中心とした施設がやって、創造していく事業は公民館も請け負っていく、というようなことになると豊かになっていくのではないか。公民館を含めて文化芸術を考えていくという視点、というものが今後議論としてあってほしい。

(事務局) 現在、第三次文化芸術構想を作っていた中で皆さまに御指摘いただいているが、同時に教育委員会においては、「上田市生涯学習基本構想」「上田市図書館基本構想」を作成している。以前は、いずれの基本構想も教育委員会で作成していたが、文化芸術の分野が市長部局に移ったので、現在は文化スポーツ観光部で担当している。ただ、公民館についても大きな課題があり、利用者団体の皆さんが高齢化してきているということは承知している。そのような中、最近は中学校部活動の地域展開で公民館の活動を部活動的なものとみなして、

そこで世代間交流を図ってやっていこうという動きが出てきている。世代間交流も次の公民館の展開に必要なことではないかと思っている。また、先ほど委員からいただいた御意見については、文化政策課職員が生涯学習基本構想策定の会議にも同席しているので、機会があればお伝えさせていただきたい。

(委員) 中学校部活動の地域展開のことだが、どこの学校にも「美術部」が存在していて、活動場所が令和8年度以降どうするかというのが学校でも検討している。公民館に子どもたちが実際に足を運ぶ機会がないので、公民館を使っていけば、世代交流にもなるし学校に戻って「こういう人たちとこういう交流をした」と公民館活動の良さが広がっていくのではないかと思う。私は公民館の活用に賛成

(事務局) 今、公民館のことが話に出ているが、上田は中央公民館のような大きな公民館が各地区に9つあり、その下に自治会単位の公民館分館がある。各地区の学校に近い身近な公民館であり、様々な活用法があると思うので、委員の御意見を参考にさせていただければと思う。

(委員) 先ほど「人口減少」というキーワードのお話をさせていただいた。私は実はチャンスでもあると考えている。1月3日にコンサートがあったが、小さい舞台だったので、本来は大人数で行うオーケストラをアレンジして、弦楽七重奏で行ったところ大変評判が良かった。人口減少していくからこそ、リソースが足りなくなってくるからこそ公民館を使ってとか、今までは「こうじゃなかったら絶対に出来ない」というものが、生まれてくるのではないかと思う。文化振興というのは市民に潤いを与えるという前向きなメッセージを発していくべきところだと思うので、基本的にそれはどこかに人口減少という言葉は入れなくてはいけないが、前向きにどうやって変えていくのだろうかという視点の中で進めていくのが大事だと思う。

(事務局) 御指摘がなければ「人口減少」というマイナス面を、好転に変えていく表現となるように考えたい。

(委員) 「人口減少」の一方で、外国籍の方が増えているという視点も文化芸術の文脈では大事なのではないかと思っている。今回「つながる」ということで、他分野との連携ということが記載され、外国籍の方とのコミュニケーションツールとして文化があると思っている。これを取り入れてほしいというよりも今後の議論としていただきたい。今回の委員の皆さんは母語が日本語という方が多いと思うが、こういう場にも外国籍の方がいらっしゃるとか障がいがある方とかいろいろ反映されていくと良いのではないか、と思っている。外国籍の方についても既に性別・国籍というところを入れてもらっているので、これ以上はないが、人口減少と一緒に外国籍の方が増えていくというところで、文化芸術が担える役割があるのではないかという視点があると良いというのが一つ。

あと、今回委員としてこの場に居させてもらって様々な委員の方と議論が出来たということが素晴らしかったと思っている。これを入れるかどうかは別として、上田市が市民と議論をしながら進めていくという文言が計画にあったら、計画の時だけではなくて、もう少しコンスタントにいろいろな分野の専門家の方が集まって議論が進められる場がもう少し頻繁にあると良いのかなと思った時に「議論をしながら進めていきます」みたいな文言があるとやりやすいのかなと思ったということを伝えておきたい。今回、色々な方のお話が聞けて学びが多かったし、それが少しずつ市の計画に反映されていくという、とても良い勉強をさせてもらったと思っている。

(事務局) 今、日本の市町村の流れとしては、こういった審議会形式の形が減ってきていてパブコメがあれば十分じゃないかという風潮がある。審議会の議員さんを減らしたり、回数を減らしたりということもあるが、私はパブコメで全て補えているとは思ってなくて、このように皆さんと膝を交えてお話をさせていただくことが大切だと考えている。ある委員さんの御意見を聞いて、そこから派生的にまた他の委員さんから意見が出るということで、今回はこういった形で御審議をいただいて大変良かったと思っている。今回の計画が正直100%だとは思わないが、こういったものを皆さんと作り上げてきたことは素晴らしいことだと思うし、これを一つでも二つでも事業化していきたいと考えている。

(委員) 真田で今、真田を描く絵画を全国から募集していて、今年で2回目の大会を行ったところ

中学生部活動の地域展開の話が出たが、真田町には現在真田中学校、菅平中学校の2校の中学がある。美術の学習の中で描いていただいた絵を今回それぞれ40点程出していただいた。それは皆さんに観ていただくという展示をしたが、1回目と2回目を比べると非常にレベルが上がっていた。大勢の方に見に来ていただいたが、県外（埼玉・長崎等）からもわざわざ真田に来て絵を描いていただいて、それを出展していただくという形があった。なかなか運営するのは大変で、第1回は真田町文化協会に所属している「絵画クラブ」が運営を担当していたが、高齢化が進んでおり運営が大変だということで、私たちの文化協会も2回目の開催から関わっている。3回目はどうしようか、というタイミングだが、是非続けたいということで、今やっている最中である。文化的な部分で学生と触れ合うことが出来たのは面白いかなと思っていて、それが中学校の部活動の応援にもつながっているのではないかなと思っている。絵画クラブと美術クラブで何か出来ないかという話を進めている状況。やってみて非常に良かったと思う。他の地域でもこのようなことが出来れば良いと思い、お話をさせていただいた。そうすることによって、中学生とのつながりとか、部活とのつながりが見えてくると思う。

(会 長) 最後に、ずっと参加させていただいているなかで文化芸術を継承していく時に「児童・生徒」という視点があるなかで「学生」というところが世代としてあまり描かれていないかもしれないと感じていた。本学の学生を見ていると公民館の活動はもちろん、なかなか文化芸術に触れる機会というものを持っていない学生が多いかなというのを感想として持っている。今後「第三次上田市文化芸術基本構想」を、1つ1つ具体的に実現していくということが求められると思うので、ぜひ学生も巻き込めるようなイベント等ができれば良いと思う。上田市の中には多くの大学・短大があるので、ぜひ学生も巻き込めるようなことができれば良いな、と私自身は感じた。

委員の皆様からいただいた御意見の反映について、先ほどリード文を考えていただくという箇所があったかと思う。それについては、15ページの部分になると思うが、「人口減少の視点」を入れていただき、メール等で委員の皆様にも共有をお願いしたいがどうか。

(事務局) 人口減少の視点と、丸子文化会館の自主事業の記載を含め、今日いただいた御意見を反映した案を電子メールで共有させていただく。

(会 長) メールをいただいた中で、もし御意見等ございましたらお寄せいただくということにはなるかと思うが、その後は、私と副会長と事務局に一任をさせていただきということで、よろしいか。

(委 員) (異議なし)

(事務局) 会議録の確認と今後の予定について説明及び、委員の皆様へ御礼

(副会長) 「シリーズ文化講演会」についての御案内

(委 員) 「うえだ子ども文化祭」についての御案内

(会 長) 閉会の言葉